

“生涯宣教師”の精神で、青年学生伝道の起爆剤となれ！

第3期天一国青年宣教師帰国報告修練会 & VISION2020 出発式

真の父母様の大きな願いを受け、昨年4月に活動
を始めた第3期天一国青年宣教師約70人のうち、
大学生を中心に任地から一足早く帰国した29人が
集まり、「第3期天一国青年宣教師帰国報告修練会&
VISION2020 出発式」が、3月15日から19日ま
で宮崎台国際研修センター（川崎市）で開催されま
した。今回集まったのは16カ国の宣教師で、その内
訳はアジア3人、中華圏4人、西アフリカ1人、オ
セアニア4人、中米1人、南米5人、東北大陸3人、
ヨーロッパ8人。参加者の感想に「宣教師として同
じ目的を持ち、世界中で歩んできた兄弟姉妹に会え
たことが何よりもうれしい」（西アフリカ宣教師）と
あるように、遠く日本を離れた異国の地で天のみ旨
のため邁進してきた宣教師たちにとって、“同志”と
の再会を心から喜ぶとともに、それぞれの任地での
歩みを共有し、新たな出発に向けて決意を固める貴
い機会となりました。

◇ ◇ ◇

1日目は、田中富広副会長がメッセージを語り、家
庭連合への名称変更や、社会的な注目度がわかる家
庭連合に対するメディア報道など、宣教師たちが世
界で歩んでいた過去1年間の日本における摂理の動
きを説明。その上で、「天一国ができるまで生涯宣教
師の姿勢を貫き、今後日本で何をしても『伝道』の
意識を忘れないください。日本の青年を刺激し、
伝道へと向かわせることのできる霊的支柱となっ
てください」と激励しました。

それに先立ち、赤石 僚 国際宣教部長は開会式で、
「(宣教活動を通して) 天の父母様が宣教師を直接教
育されます」と強調。真の父母様御聖誕日と基元節
3周年を祝賀するミュージカル「天一国 蝶の夢」で
描かれたように、真の父母様は宣教師たちを深く愛
されていると語りました。

その後、各国の代表が活動報告を行い、それぞ
れの1年間の歩みを共有しました。

2日目は、朝から5時間以上にわたって証し会が
行われ、23人が宣教地での歩みを証言しました。

日本とはまったく違う環境で、天の父母様と真の
父母様のみ言を宣べ伝えるために身もだえした体験

談の数々は、聴く者の胸に迫り、涙なくしては聴く
ことができません。南米で2人を食口基準にまで導
いた宣教師の証しでは、「もしまた宣教に行くことが
あれば、絶対にこの兄弟たちと歩みたい!」という
固い兄弟愛で結ばれたエピソードに、参加者全員が
感涙にむせびました。

夕方には海外では入ることのできなかった大浴場
で心身をリフレッシュさせ、夜には和勤会を行いま
した。エンターテナーの多い第3期生たちが次々
に歌や踊りなどを披露すると、会場は大いに沸きま
した。

3日目は、班別に宣教地での具体的なフィードバ
ックを行い、今後の宣教活動に役立たせる資料を作成
しました。

その後、赤石部長が「宣教総括」を行い、「天一国
時代に青年期を迎える『二世圏』である皆さんはと
てつもない恩恵ある立場です」と説明。海外宣教を
通じての成長を糧にして「天一国創建を決意してく
ださい」と呼び掛けました。

午後は、佐野忠國成和大学生部長が、天の父母様
と真の父母様に対して持つべき「孝」の心情姿勢や、
真の父母様の青年学生にかけられる願いとは何かに

ついて講話。また、昨年発足した「大学生会」の活
動内容などを紹介しながら、「救国救世に向かって、
大学生が先頭に立っていくべきです」と訴えました。

この日は、ミュージカル「天一国 蝶の夢」の映像
を全体で視聴しました。このミュージカルはヨーロッ
パの旧共産圏における命懸けの宣教活動がメイン
テーマであり、真の父母様の海外宣教にかけられる
願いの強さとヨーロッパの宣教師たちの姿に、同じ
宣教師として深い感銘を受けていました。

(3面に続く)





①赤石僚国際宣教部長 ②篠崎幸郎伝道部長 ③佐野忠國成和大学生部長 ④任地国での活動報告をする男性宣教師 ⑤ディスカッションを行う参加者 ⑥閉会式で田中副会長から修了証を受け取る宣教師 ⑦礼拝で証しを行う宣教師（ドミニカ共和国） ⑧伝道対象者と記念撮影する宣教師（後列中央、フィリピン） ⑨21日修練会で班員たちと写真に納まる宣教師（右端、アルゼンチン）



4日目は、田中副会長が再び講話を行い、青年・学生が現在の統一運動において極めて重要な役割を担っているとした上で、「（宣教師たちは）日本の青年圈の取り組みに対しても主人意識を持ってほしい」と語りました。

午後には、修練会後に恒例の40日伝道路程に臨む宣教師たちに対し、篠崎幸郎伝道部長が伝道講座を行いました。1年間の宣教を経験した上で聴く講義は、以前とは実感のレベルが全く異なり、講師の言葉が一人ひとりの心に強く響きました。

最終日の5日目、赤石部長が「神観」の講義を行い、「全ての根っこは神観です。ここがしっかりしていないとすべてがぼやけるのです」と指摘。「父母なる神」であることを真の父母様のみ言や聖書をひも解きながら解説しました。

続いて、既に日本で歩んでいる先輩宣教師から伝道の証しを聴く時間を持ちました。帰国後に霊の子3人を伝道した女性メンバーや伝道リーダーをしている先輩たちの口からは、「世界を救いたいと思うからこそ、まず

この日本が立っていかねばならないと思ひながら頑張っています」と宣教経験者ならではの言葉が相次ぎました。

この日の午後、田中副会長を迎えて閉会式及び出発式が行われました。

田中副会長は、日常生活における自己主管の重要性と「霊の子3人」が原則的基準だと語った上で、「祝福二世も一世の信仰を相続する基準を立てなければなりません」と述べ、これから日本で新たな一歩を踏み出す宣教師たちを激励しました。

宣教師の代表が決意表明を行い、「任期を終えた今、母国である日本を、誰よりも愛された真の父母様の代身として、私達は父母の心情、僕の体で天一国青年宣教師として、お母様から召命されたことに誇りを持って出発して参ります！」と力強く宣言しました。

閉会後、国内伝道40日路程に参加する宣教師21人が、世界を愛した土台の上でその運勢を日本へと連結すべく、それぞれの任地へと出発していきました。

【参加者の声】

■海外宣教を経験したことで、今まで文字列だけだったみ言が心の中で具体化されたこと、本当にかけがえのない出来事を間近で見せて頂いたことが何よりも宝物です。苦楽を共に分かち合った心情と、試練を乗り越えた体験は生涯忘れることがないと思います。（西アフリカ、A・C）

■久しぶりに他の宣教師の顔を見て、「みんな良い経験をしてきたのだ」と思いました。顔つきも変わって、大人びていたり、自信をもっている様子がうかがえました。また、今までのどんな修練会で出会った人々との結びつきよりも、また教会で感じた結びつきよりも強い絆を感じました。（南米、Y・T）

■帰国報告会に参加し、他の国で歩んだ宣教師たちの歩みを聴くことができ本当に良かったです。一人ひとり、神様の予定・計画があって選ばれた国と選ばれたチームメンバーだったのだと改めて感じました。（中米、Y・O）

■篠崎伝道部長の伝道講座や赤石部長の神観の講義を聴いて、「霊の子がいないときに聴くのと、霊の子が与えられてから聴くのでは違うな」と感じました。自分がどのように伝道対象者に接し、どれだけみ言を伝えようとしたかを思い出し、「できたこと」「できなかったこと」を気付くことができました。（台湾、T・S）

■自分自身のこの1年間の歩みを振り返っても天の導きを強く感じていましたが、メンバーの証しを聴いてさらに刺激を受けました。何よりも天からの宣教師に対する愛を強く確信し、この体験を青年たちに広めていかなければと思いました。（オセアニア、S・K）

■真のお母様が愛される日本で歩む私たちには希望がありません。40日伝道路程を私の力で成すのではなく、天運が働くように天の父母様に心情をゆだねて、勝利の報告を真の父母様に必ずお伝えします。（中華圏、E・F）

神様の夢を必ず実現させよう！

宋総会長が第2、5、6、7地区を巡回

3月中旬から後半にかけて、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長は第2地区（東北）を皮切りに、第5地区（東京）、第6地区（神奈川・静岡）、7地区（北陸）を相次いで訪問。真の父母様の愛とみ言を届けながら、「夢を夢で終わらせてはならない。必ず実現させよう！」と呼び掛けました。今回は、東日本大震災5周年に合わせて訪れた第2地区と第6地区の巡回の様子を紹介します。



第2地区で被災者家族を慰労

3月10日（木）朝、宋総会長は空路山形入りし、午前9時ごろ庄内家庭教会に到着。宋総会長は、集まった食口に歩み寄って一人ひとりと握手した後、家庭ごとに記念写真を撮りました。

宋総会長は「どんなに難しくても私たちよりも幸せな人はいません。希望の時が来ました。堂々と誇りを持って伝道しましょう！」と食口たちを激励。礼拝堂は真の父母様がおられるような雰囲気になりました。最後に全体で記念撮影をした後、宋総会長は色紙に「絶対精誠」と揮毫しました。

同日午後6時過ぎ、宋総会長は宮城・仙南家庭教会を訪問。歓迎集会には、仙南家庭教会にとって夜の集会では最高の42人が参加しました。

1時間余りのメッセージは、最初から最後まで希望と喜びと夢と愛情に包まれ、参加者にとって真の父母様の懐に抱かれたような夢のような時間に。宋総会長の「夢は必ずかなう」の言葉を受けながら、食口たちは勝利を確信しました。

東日本大震災からちょうど5年を迎えた3月11日（金）、宋総会長は福島教区の白河家庭教会といわき家庭教会を相次いで訪れました。

福島教区の中で一番小さな白河家庭教会で、宋総会長は最高齢92歳の壮年を含む35人のメンバーに対し、「ビジョンを持つ私たちは皆青年です」と語り、勇気づけました。

白河家庭教会からいわき家庭教会に移動する途中、宋総会長は東日本大震災が起きた午後2時46分に合わせ黙祷。「園の歌」を讃美し、特別祈禱を捧げました。

いわき家庭教会では、宋総会長は集会に先立ち、震災で夫を亡くした婦人や家族を亡くしたメンバーを特別に慰労する時間を持ちました。

婦人のほか壮年、青年、祝福二世など132人が参加した特別集会で、宋総会長は「皆さんは、ユダヤ人以上、アブラハム、イサク、ヤコブ以上の信仰者です」と繰り返し強調。「皆さんの夢、希望、願いは必ず実現されます」と祝福しました。

翌3月12日（土）、宋総会長は福島・会津家庭教会と南郡山家庭教会を訪問しました。

会津家庭教会で、宋総会長は「何よりも精誠があれば、すべて勝利できます。真の父母様が祝福家庭に共におられ、共に成しておられます」というメッセージに、参加者たちはたくさんの天運と恩恵を肌で感じる事ができました。



- ①メッセージを語る宋総会長（福島・会津家庭教会）
- ②福島・白河家庭教会の食口たちと
- ③移動の途中、東日本大震災の発生時刻に合わせて祈禱する宋総会長
- ④歓迎の花束を受け取った宋総会長（川崎家庭教会）
- ⑤会場を魅了した川崎家庭教会の「鮮鶴ファミリー合唱団」
- ⑥宋総会長のメッセージに拍手を送る参加者（同上）
- ⑦宋総会長とともに決意を体で表わす参加者（中原家庭教会）

南郡山家庭教会では、宋総会長は集まった食口一家庭ずつと写真撮影をしながら、一人ひとりに温かい言葉をかけていると、ある婦人食口は感極まって涙がとまらず、撮影が中断する場面もありました。

東神奈川教区で食口と交流

3月13日（日）、宋総会長は東神奈川教区の川崎家庭教会と中原家庭教会を巡回しました。

川崎家庭教会の特別礼拝には、ネット中継の参加者を含め450人が参加。はじめに小学生から親世代までの62人で構成した「鮮鶴ファミリー合唱団」が精誠を込めて歌を披露すると、宋総会長は「とても感動し、涙が出てきました。合唱団をお母様の元に連れて行きたい」と祝福の言葉を贈りました。

特別礼拝には普段はあまり礼拝に来ないメンバーがたくさん参加。宋総会長を通して、真の父母様の香りを感じたと感想を述べる食口が何人もいました。

中原家庭教会の特別集会で、宋総会長は「中原家庭教会にはお年寄りが多いと聞きましたが、お父様は90歳を超えても青年の中の青年で、神様の夢を果たしていこうと生きておられました。夢と希望がある人が幸せになることができます」と激励しました。

【参加者の感想】

■宋総会長様の幸せを届けてくださる笑顔が感謝でした。天の父母様、真の父母様の日本に対する思いと願いが、ジンジンと伝わってきました。堂々と明かしていくと天の父母様が共に喜んでくださるのが目に浮かぶようで、さらに希望が持てました。家庭連合の一員になれたことで、家庭が本当の意味で幸せになってきていると実感する毎日です。幸せの実感を多くの人々に伝えていきたいです。（宮城教区仙南家庭教会、M・A女性）

■年を取っていくごとに出来ないと思うことが多かったのですが、「私たちは青年である」と言われて希望が沸きました。ご父母様は常に絶対精誠を立てられ、休む間も惜しんでみ言を語られておられると聞いて、目の前が明るくなってきました。夢とビジョンを持って、今以上の歩みができるように精誠を尽くしていきます。（福島・白河家庭教会、T・M女性）

■宋総会長が全身全霊で語られるその波動は、全世界の食口に語られている姿そのものでした。天の父母様と真の父母様が宋総会長と共にいらっしゃる感じ、心を慰めて頂き、勇気を頂きました。天の計らいと深い愛を感じるとともに、本当に力強く未来の方向性と希望と夢を与えて頂き、感謝でした。（福島教区いわき家庭教会）

最高の“恩返し”は神氏族メシヤの使命勝利

徳野会長が第5、4、12、13、14地区を訪問

徳野英治会長は3月中旬から後半にかけて、第5（東京）、第4（上信越）、第12（北九州）、第13（南九州）、第14（東関東）の各地区を訪問し、救国救世のビジョンと家庭連合時代における私たちの内的姿勢などについて熱く語りました。今回は、北東京・荒川家庭教会と北福岡・八幡家庭教会における特別集会の様子を紹介します。



①北東京・荒川家庭教会の青年たちと ②青年メンバーにメッセージを語る徳野会長（荒川家庭教会） ③第14地区の「中間出発式」で（3月18日、船橋中央家庭教会） ④第4地区の「中間出発式」に集まった教会員（3月21日、高崎家庭教会） ⑤澄み渡った歌声を披露した北九州鮮鶴合唱団（八幡家庭教会） ⑥北九州市全域を臨む皿倉山頂上を訪れた徳野会長ご一行（3月19日） ⑦歓迎の花束を受け取った徳野会長ご夫妻（3月19日、福岡東家庭教会）

【参加者の感想】

■とても多くの愛を感じることができた青年特別集会でした。改めて注目されている荒川で歩めることが本当に感謝だと感じると同時に、「私も動かないと！動きたい！」と消えかかっていた火が再びつき、決意の場にもなりました。今の自分に出来ることは小さいですが、荒川の一世代の兄弟姉妹を見たら、二世も負けてられないなと感じました。（荒川家庭教会、二世青年）

■今の“時”のみ言を楽しく分かりやすく受けさせて頂き、貴重な時間となりました。み言に感謝して喜ぶだけで終わるのではなく、実践が大事であると痛感いたしました。神氏族メシヤとして使命の重大さに目覚めて、勇気をもって氏族に真の愛で接して私の責任分担を果たしていくことが大事です。ダメでもともと、勇気をもって実践しようと決意し、まずは便りを送ります。2020勝利に向かって伝道のパワーを頂き、新たな出発ができてとても感謝です。（福岡東家庭教会、婦人）

■徳野会長のメッセージをお聞きし、正しい真の父母観の確立をした上で、具体的に神氏族メシヤを勝利して数的基盤をなし、国を動かしていくために全祝福家庭が発信しなければならないと理解しました。真のお父様と一体になられた真のお母様は、いま全責任を背負われてこの日本の私たちを愛してくださり、信頼してくださっているの、その信頼を裏切る者になってはいけなかったと思います。会長の深い決意と波動を感じた一日でした。それを受け止め、また実践していきたいです。（第4地区、婦人）

“真の父母様の原理的価値”を強調

3月13日（日）午後、荒川家庭教会で「第1回北東京教区荒川家庭教会青年特別集会」が開かれ、青年学生メンバー約130人が参加しました。

徳野会長はメッセージで、「いつも話すときには何点かポイントがありますが、今日皆さんに話したいことはただ1点です。それは真の父母様の原理的価値です」と強調。その上で、「（困難を越えていく時には）原理の基本をよく理解することが大切です。つまり原理の原点です」と語り、イエス様と真の父母様の違いについて、自らの証しを交えながら分かりやすく解説しました。

徳野会長は、真のお父様と直接お会いしたことのない青年メンバーに対し、会長自身のお父様との直接の思い出を身振り・手振りを交えながら熱弁。メンバーたちにとって真の父様を心情的に間近に感じる貴重なひと時となりました。

最後に、「真の父母様によって祝福の門が開かれまし

た」と述べた上で、これから祝福を受ける多くの青年メンバーに向け、祝福の意義と価値を訴えてメッセージを終わりました。

真の父母の一体不可分性の7つの根拠

3月19日（土）、徳野会長ご夫妻を北福岡教区八幡家庭教会にお迎えし、特別集会が開催。土曜日の夜ということもあり、たくさんの祝福二世たち参加しました。

徳野会長は、祝福二世に対して「きょう二世がここにいることは極めて重要です」と述べながら、「真の父母の一体不可分性の7つの根拠」について、以下の点を挙げながら解説しました。

- (1) 真のお父様の生涯最高の実績は真のお母様
- (2) 真のお父様はお母様を「第二教祖」とであると言明
- (3) 真のお父様について一番知っている方は、お父様に52年間侍られたお母様

新しい家庭・文化づくりに挑戦しよう！

「全国家庭教育部長研修会」に 100 人が参加



- ① 全国家庭教育部長研修会の参加者
- ② 2016 年度の方針発表を行う阿部美樹局長
- ③ 二世圏の祝福推進について語る櫻井正上副局長
- ④ 家庭教育について講義する多田聡夫部長

3月15日から17日までの3日間、「2016年度全国家庭教育部長研修会」が一心特別教育院（千葉・浦安）で行われ、全国から約100人が参加しました。「家庭連合時代の新しい家庭・教会文化づくりへの挑戦！」というスローガンを掲げ、理想家庭と心情文化共同体の健康な教会づくりを目指して行われました。

1日目は、多田聡夫家庭教育部長を中心に理想家庭づくりを目指す「家庭教育部門」の研修がありました。昨年、取り組んできた「家庭力アップの講座」を推進すると同時に、今回は「家庭連合時代の生活」と題して、家庭訓読会、安待日、家庭礼拝など、家庭生活における伝統相続の大切さが強調されました。

2日目は、櫻井正上副局長を中心に二世圏の祝福を推進する「祝福教育部門」の研修がありました。2月に行われた祝福式の全体の様子や参加者の感想・証しなどが紹介され、来年の祝福式に向けての課題と戦略が発表されました。特に、本部において「二世圏祝福推進委員会」が発足し、来年の祝福式に向けて本格的に力を入れている

ことが明示されました。

3日目は、梶栗正義 UPF 事務総長を迎えて「神氏族メシヤと救国救世基盤造成」に向けての研修があり、少子高齢化と家庭崩壊の危機などを克服するためのビジョンや思想を学ぶ場となりました。

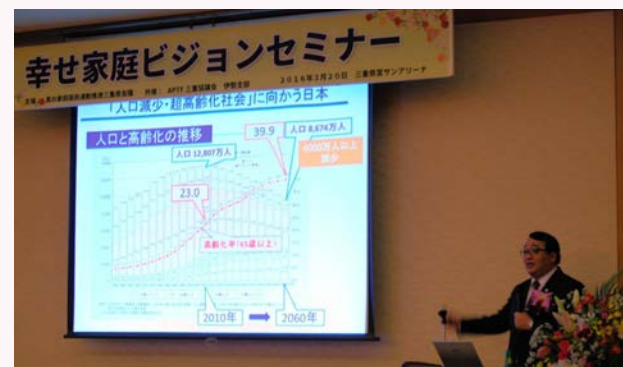
最後に阿部美樹家庭教育局長が、2016年度の方針の要点確認と家庭連合時代に相応しいパラダイムシフトの必要性を説明しました。

激励に駆けつけた宋龍天総会長は、「家庭連合」への名称変更を通した奇跡的な神様の導きを証しし、真のお母様が語られた「日本は天が家庭連合という環境創造をしてくださった」というみ言を紹介しながら、家庭教育の重要性について語りました。

徳野会長は閉講式において「本部自体が二世圏の祝福を本格的に推進することになりました。これが主流の摂理です！」と力強く表明。参加者は家庭教育こそ最も大切であることを実感し、希望を持って出発しました。

“家族” 重視する国民性に合わせた少子化対策を

三重・伊勢で「幸せ家庭ビジョンセミナー」



- ① 講演する魚谷俊輔・UPF 日本事務次長
- ② 聖歌隊「ハーモニー ISE」が美しい歌声を披露
- ③ セミナーの参加者

3月20日、三重県伊勢市内の会場で、「家庭の危機と再生のための政策ビジョン」をメインテーマに「幸せ家庭ビジョンセミナー」（主催・真の家庭国民運動推進三重県会議）が開催され、新規ゲスト35人を含む162人が参加しました。

第1部では、聖歌隊「ハーモニー ISE」による讃美、地元議員による来賓挨拶、祝電披露に続き、魚谷俊輔・UPF 日本事務次長が、『「人口減少社会」日本の未来』と題して講演し、急激に進む少子高齢化や同性婚合法化に向けた動きなどを取り上げながら、日本社会に迫りつつある家庭崩壊の危機に警鐘を鳴らしました。

その中で魚谷氏は、「欧米では、子供の2人ないし3人に一人が婚外子で、結婚・家族制度がすでに崩壊状態にあります。そうした欧米の政策モデルを、婚外子の割合が2.1%に留まり結婚・家族制度が守られている日本に持ち込むべきではありません」と指摘。「日本人の2人に1人は、（自分、愛情、健康、お金などよりも）『家族』を一番大切に思っています。家族・地域の絆を大切に作る日本人の国民性を前提にした家族政策を考えなければなりません」と訴えました。

ればなりません」と訴えました。

第2部の懇親会は、真の家庭国民運動推進全国会議の川上与志夫顧問（帝塚山学院大学名誉教授）の挨拶でスタート。参加した12人の有識者からは、「少子化対策として、家庭環境の改善や親戚付き合いをもっと大切にすべき」「若者に対して『教育勅語』にあるような道徳教育をすることが親の責任」「三世同居を支援するなど、行政による対策が必要」などの意見が上がっていました。

【参加者の感想】

■国会論議では待機児童問題ばかり取り上げられていますが、もっと根本的な結婚の価値教育を議論し、正しい価値教育観を広めていかなければならないと強く思いました。（60代女性）

■少子化・高齢化対策として、スウェーデンとフランスのモデルが分かりやすく解説されました。スウェーデンは高福祉国家で出生率も高いので一見成功しているようですが、家族崩壊や犯罪増加など別の問題が発生していることを初めて知りました。出生率を上げても家族の崩壊につながるようでは希望がありません。（20代女性）

家庭こそ愛国心を育む基地

第1地区で「第20回春の大讃美・原理大復興会」



- ① 講演する勅使河原秀行・総合企画局副局長
- ② 文孝進様の楽曲を披露する青年バンド
- ③ 様々なジャンルの歌が参加者を魅了
- ④ フィナーレは全聖歌隊が参加して愛唱歌「母なる祖国に祝福あれ」を讃美

3月16日、札幌市内のホールで「第20回春の大讃美・原理大復興会」が行われ、新規ゲスト200人を含む約1000人が参加しました。

2011年から始まった大讃美・原理大復興会も早や20回目。讃美とみ言を通じた神霊と真理による価値転換、および善なる霊界協助の基台づくりを目的として、新規伝道や対象者の教育を図ってきました。

今回は「救国救世と真の家庭運動」のテーマのもと、全道から集まった15の聖歌隊が、聖歌や讃美歌、クラシック、ポップス曲、オリジナル曲などを披露し、神様・イエス様・真の父母様を讃美。演奏曲は、日本語、韓国語、英語、フィンランド語の4カ国語と国際色豊かで、青年バンドによる文孝進様の楽曲も演奏されました。

復興会では、本部総合企画局の勅使河原秀行副局長が「私が見た統一原理」と題して講演し、大学時代にカープを通して統一原理に出会ったエピソードを披露。元々の天理教の信仰と比較しながら、統一教会の信仰を持つに至った自らの率直な葛藤などを交えて語りました。参加者は講演内容に引き込まれ、あらためて家庭連合の信仰の深さを実感させられました。

今回のテーマ「救国救世」にちなんだ3曲も演奏され、「家庭」こそ現代日本でも弱くなりつつある愛国心を育む基地であることを再認識する時間となりました。最後は、家庭連合の愛唱歌「母なる祖国に祝福あれ」が全聖歌隊によって讃美され、参加者は霊的にも大きく復興しました。

第1地区は、今後も天の父母様と真の父母様を堂々と讃美しながら、原理のみ言を多くの人に伝え、真の家庭運動と祝福を力強く推進していく方針です。

【参加者の感想】

■ 勅使河原講師の講演を聴いて、「嫌われている宗教には入りたくない。でも教会の人たちは良い人が多い」と思ったことに私も共感しました。「愛したくないものを愛する努力をする」などの苦勞をして自分が変わらないといけなくて聞いて、私はまだ努力が足りないの、もっと頑張ろうと思いました。(30歳女性・新規)

■ 初めて参加させていただきましたが、とても感動しました。歌からも心に伝わるものがあり、勇気をもらい、さらに前に進みたいです。

全国の伝道の証し

初めての伝道実践で、天に導かれた出会いが続出！

第8地区 北愛知教区 名城家庭教会

「こんな出会いがあるなんて信じられない。天の父母様有難うございます！」

実践の訓練メンバーが、名古屋市内の街頭で行った初めての伝道実践で、恵み大きい天の父母様との出会いがありました。

「神様の気持ちになって、街行く人に声かけましょう！」と6人のメンバーが決意して出発しました。

皆でお祈りをし、ラウンドを決めて3組のペアが歩み始めました。

そして何人かに声をかけていく中で、次々と準備された人々に会っていったのです。

バス停で待っている人に声をかけていたペアは、出会う人がいろいろと話をしてくれるのですが、すぐにバスが来て行ってしまいます。

「これじゃ話ができないね」とペアで話し合い、次は歩いている人たちに声をかけてみることに。

そこで伝道ペアの一人であるSさんの出会った人は、Sさんと同じ境遇を通過した人でした。年齢も、夫を亡くしていることも、そして息子さんが40代独身でいることも同じでした。

その人の思いは、Sさんと相通ずるものがあり、二人は思わず話し込んでしまいました。二人は互いの出会いを喜び、再会の約束を取ることができたのです。

* * *

もう一組の伝道ペアは、30代の若いメンバー同士で歩きました。

二人とも自宅で祖母と同居し、よく交流しているメンバーです。二人は彼らの祖母たちにそっくりな80代のお婆さんに会いました。

そのお婆さんに声をかけると立ち止まり、足が悪いので壁に寄りかかりながらいろいろと話をしてくれました。二人が一生懸命に話を聞いているうちに

長い時間が経過してしまいました。

交流が続く中で、そのお婆さんはとても喜んでくださり、再会の約束ができました。そのお婆さんは、息子さんの名刺を3枚くださいました。

その名刺は、声をかけたメンバーが住んでいる地域選出の議員のもので、メンバー本人も選挙で投票した人でした。そして何と、お婆さんはその議員の母親だったのです。

メンバー二人は「こんな街頭で出会えるなんて！」ととても驚いていました。

もう一つのペアにも良き出会いがありました。

ペアの一人であるMさんが出会った人は、Mさんより一回り若い人ですが、同じように夫を亡くし、一人住まいをしている女性でした。そして交流していく中で、住所を尋ねたところ、聞いてびっくり。それはMさん宅の斜向かいのマンションだったのです。連絡先を教えてもらい、Mさん自身の連絡先を教えようとする、女性は「覚えられないから、そっちから電話してください」と言いました。

さらに女性は「近所だからいつでも会えるし、一度家で食事に招待したい」と言ってきたので、Mさんはとても喜んでいました。

* * *

限られた時間の中での3件の出会いを通して、皆が純粋に神様のように親の心情で一人ひとりを訪ねて行くことで、本当に神様が働いてくださることをメンバーたちは実感することができました。

全員が、神様の愛に出会い、生まれて初めて伝道実践を行った信仰の幼いメンバーたちです。彼らは「次の伝道実践が楽しみになりました」と口々に喜びの声を上げながら、神様が出会わせてくださった人々との間にしっかりと信頼関係を築いていくことを決意していました。